

## 11年間の主要財務データ

年度	2006	2007	2008	2009	2010
売上高	¥1,665,946	¥1,801,164	¥2,303,569	¥2,278,473	¥2,177,802
うち酒税	402,321	400,555	380,691	359,743	342,527
純売上高	1,263,625	1,400,608	1,922,877	1,918,730	1,835,274
日本総合飲料事業	—	—	—	—	934,765
海外総合飲料事業	—	—	—	—	403,977
医薬・バイオケミカル事業	—	—	—	—	404,714
その他事業	—	—	—	—	91,818
営業利益	116,358	120,608	145,977	128,435	151,612
のれん等償却前営業利益	—	—	—	157,769	193,600
EBITDA <sup>※1</sup>	191,161	213,129	264,620	212,838	269,392
平準化EBITDA <sup>※2</sup>	—	—	—	—	—
経常利益	120,865	123,389	103,065	144,614	140,969
当期純利益	53,512	66,713	80,182	49,172	11,394
平準化当期純利益 <sup>※3</sup>	—	—	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	123,685	114,585	131,281	189,907	218,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 153,239	△ 269,621	△ 169,330	△ 321,654	△ 140,917
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 50,012	121,555	26,684	174,208	△ 140,197

## 年度末

総資産	¥1,963,586	¥2,469,667	¥2,619,623	¥2,861,194	¥2,649,197
有利子負債	302,762	673,872	723,703	963,209	859,376
自己資本 <sup>※4</sup>	993,989	1,054,811	927,812	981,322	962,476

## 1株当たり情報

1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	¥ 55.98	¥ 69.86	¥ 84.01	¥ 51.54	¥ 11.95
平準化EPS (円) <sup>※5</sup>	—	—	—	—	—
のれん等償却前EPS (円)	66.18	79.72	34.72	81.92	94.31
配当金 (円)	17.00	21.00	23.00	23.00	25.00

## 財務指標

ROE (%) <sup>※6</sup>	5.4	6.5	8.1	8.3	8.8
のれん等償却前営業利益／純売上高 (%)	—	—	—	—	10.5
純有利子負債／平準化EBITDA (倍)	—	—	—	—	—
連結配当性向 (%) <sup>※7</sup>	30.4	30.1	27.4	44.6	26.5

(注) 掲載金額は百万円未満切捨てで表示しています。

※1 2008年度以降：EBITDA＝営業利益＋持分法による投資損益＋減価償却費＋のれん償却額＋特別損益（ただし、のれん等に関する減損損失他を除く）

2007年度以前：EBITDA＝税金等調整前当期純利益＋支払利息－受取利息・配当金＋減価償却費＋のれん償却額

※2 平準化EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額＋持分法適用関連会社からの受取配当金

※3 平準化当期純利益＝当期純利益＋のれん等償却額 ± 税金等調整後特別損益

※4 自己資本＝純資産－非支配株主持分－新株予約権（連結貸借対照表での記載）

(単位：百万円)						増減率 (%)
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016 / 2015
¥2,071,774	¥2,186,177	¥2,254,585	¥2,195,795	¥2,196,925	<b>¥2,075,070</b>	△ 5.5
323,375	315,549	310,798	301,365	305,697	<b>296,028</b>	△ 3.2
1,748,398	1,870,627	1,943,786	1,894,429	1,891,227	<b>1,779,041</b>	△ 5.9
859,672	871,842	869,377	851,591	885,856	<b>857,225</b>	△ 3.2
454,216	579,391	685,254	693,175	624,169	<b>561,439</b>	△ 10.1
332,843	322,976	331,377	325,149	355,777	<b>335,733</b>	△ 5.6
101,665	96,417	57,778	24,513	25,424	<b>24,642</b>	△ 3.1
142,864	153,022	142,818	114,549	124,751	<b>141,889</b>	13.7
189,812	202,675	198,086	171,542	158,537	<b>169,915</b>	7.2
247,602	297,185	—	—	—	—	—
—	307,339	301,486	273,183	258,922	<b>253,006</b>	△ 2.3
136,818	138,452	132,134	94,211	128,199	<b>140,676</b>	9.7
7,407	56,198	85,656	32,392	△ 47,329	<b>118,158</b>	—
—	112,868	115,426	108,779	107,063	<b>113,880</b>	6.4
196,792	212,061	205,517	155,247	171,011	<b>226,468</b>	32.4
△ 361,658	△ 48,379	85,526	△ 139,397	△ 70,659	△ <b>77,520</b>	—
193,214	△ 160,008	△ 272,357	△ 80,701	△ 78,221	△ <b>145,184</b>	—
¥2,854,254	¥2,951,061	¥2,896,456	¥2,965,868	¥2,443,773	<b>¥2,348,166</b>	△ 3.9
1,144,786	1,037,188	858,911	873,003	821,478	<b>711,762</b>	△ 13.4
852,922	948,943	1,075,861	1,101,833	663,842	<b>680,662</b>	2.5
¥ 7.70	¥ 58.44	¥ 90.76	¥ 35.27	¥ △ 51.87	¥ <b>129.49</b>	—
—	117	122	118	117	<b>125</b>	6.8
70.58	124.87	159.92	108.57	△ 2.83	<b>172.00</b>	—
27.00	29.00	36.00	38.00	38.00	<b>39.00</b>	2.6
6.9	12.4	14.0	8.6	△ 0.3	<b>21.9</b>	—
10.9	10.8	10.2	9.1	8.4	<b>9.6</b>	—
—	2.86	2.25	2.76	2.67	<b>2.33</b>	—
38.3	24.8	29.5	32.2	32.5	<b>31.2</b>	—

※5 平準化EPS＝平準化当期純利益／期中平均株式数

※6 ROE＝当期純利益／平均株主資本

2009年度からのROEはのれん等償却前の数字であり、キャッシュの流出を伴わない損失等については除いた数値で算出しています。

※7 2010年度からの配当性向はのれん等償却前EPSに対する数字であり、キャッシュの流出を伴わない損失等については除いた数値で算出しています。2012年度からの連結配当性向は平準化EPSに対する数値を表示しています。

## 2016年度の経営成績および財政状態の報告・分析

(注) 全ての比較数値は、特に記載のない限り、前期(2015年度)との比較数値となっています。2007年7月に持株会社制が導入されたため、キリンホールディングス株式会社の連結財務内容の開示は、この組織体制の下で事業を行う企業グループ(キリングroup)の国内外における活動に関するものであり、日本において一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠しています。2016年12月31日現在のキリングroupの連結子会社は188社、持分法適用関連会社は18社です。

### 事業環境・業績概況

当期における世界経済は、中国を始めとするアジア新興国や資源国の景気に少し持ち直しの動きが見られましたが、国際金融・資本市場の変動、各国の政治環境の変化及び地政学的なリスクが懸念され、不確実性をもって推移しました。

わが国経済は、個人消費は一部に弱さが見られたものの、雇用・所得環境の着実な改善を背景に総じて底堅く、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。

そうした中、キリングroupでは、構造改革によるキリングroupの再生に向けて、収益力の改善を最優先課題とし、優先度を明確にした投資による事業の競争力強化に取り組みました。その結果、重点課題のうち“低収益事業の再生・再編”は、キリンビバレッジ及びブラジルキリンの業績回復を中心に計画を上回って進捗し、“医薬・バイオケミカル事業の飛躍的成長”は計画通りに進捗しました。一方で、特にキリンビールでビール類全体の販売数量が前年を下回るなど、“ビール事業の収益基盤強化”に課題が残りました。

### 損益計算書

#### ◆ 連結売上高、売上総利益

酒税を含む連結売上高は、日本総合飲料事業におけるキリンビールでのビール類の販売数量減少、キリンビバレッジで第2四半期から販売促進費の一部を売上高控除とした影響に加え、海外総合飲料事業における為替の影響により、前期比5.5%減の2兆750億円となりました。

酒税抜き連結売上高については、前期比5.9%減の1兆7,790億円となりました。

酒税抜き売上原価は前期比6.7%減の8,616億円となりました。この結果、売上総利益は前期比5.2%減の9,173億円となりました。また、酒税抜き売上総利益率は、51.2%から0.4ポイント増の51.6%となりました。

#### ◆ 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費(販管費)は、医薬・バイオケミカル事業での研究開発費の増加はありましたが、キリンビールでの販売費減少、ブラジルキリンにおける販管費減少等により、前期比8.0%減の7,754億円となりました。酒税抜き売上高販管費比率は、1.0ポイント減の43.6%となりました。

販管費に含まれている研究開発費は前期比2.7%増の628億円(製造費用に含まれる研究開発費を含めると629億円)で、酒税抜き連結売上高の3.5%を占めています。このうち、医薬・バイオケミカル事業の協和発酵キリンの研究開発費は535億円で、連結ベースの研究開発費の84.7%となっています。

のれん等償却後の連結営業利益は、キリンビバレッジでの大幅増益及びグループ各社でコスト削減が250億円となるなど収益性改善の取り組みが進展したこと等により増益となり、前期比13.7%増の1,418億円となりました。これらの結果、酒税抜き連結売上高に対し、のれん等償却前営業利益率は、前期より1.2ポイント増の9.6%、のれん等償却後営業利益率は、前期より1.4ポイント増の8.0%となりました。

#### ◆ 営業外損益、経常利益

営業外損益は、対前年46億円減の12億円の損失となりました。そのうち持分法投資損益は43億円減少し、サンミゲルビールの業績は好調でしたが、主に医薬・バイオケミカル事業セグメント子会社の投資損益減少の影響を受けました。上記の営業利益増加と相まって、経常利益は、前期比9.7%増の1,406億円となりました。

#### ◆ 特別損益

豪州におけるアンハイザー・ブッシュ・インベブ社とのビール販売ライセンス契約の終了による解約金246億円、ブラジルキリン子会社(マカク工場)の株式譲渡契約締結に伴う売却益154億円の計上等により、主にライオンにおける事業構造改善費用の計上等による特別損失が272億円発生しましたが、前年の巨額な減損損失の計上の反動もあり、特別損益は1,508億円改善し、400億円となりました。

#### ◆ 親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益増加、多額の特別利益の計上により、親会社株主に帰属する連結当期純利益は、前期から1,654億円の大増となる1,181億円となり、過去最高益を更新しました。1株当たり当期純利益(EPS)は129.49円、のれん等償却前EPSは172円となり、平準化EPS<sup>※1</sup>は、前期から8円増の125円となりました。また、のれん等償却前ROEは21.9%となりました。

※1 平準化EPS=平準化当期純利益/期中平均株式数  
平準化当期純利益=当期純利益+のれん等償却額±税金等調整後特別損益

## 連結損益計算書サマリー

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	増減率
売上高	21,969	20,750	△ 5.5%
うち酒税	3,056	2,960	△ 3.2%
酒税抜き売上高	18,912	17,790	△ 5.9%
売上原価	9,231	8,616	△ 6.7%
売上総利益	9,680	9,173	△ 5.2%
販売費及び一般管理費	8,433	7,754	△ 8.0%
営業利益	1,247	1,418	13.7%
のれん等償却前営業利益	1,585	1,699	7.2%
営業外収益	298	208	△ 30.0%
営業外費用	264	221	△ 16.3%
経常利益	1,281	1,406	9.7%
特別利益	291	673	130.6%
特別損失	1,399	272	△ 80.5%
税金等調整前当期純利益	174	1,807	938.5%
法人税等	459	470	2.6%
非支配株主に帰属する当期純利益	188	155	△ 17.7%
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△)	△ 473	1,181	—

## 指標等

	2015年度	2016年度	増減率
1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	△ 51.87	129.49	—
のれん等償却前EPS(円)	△ 3	172	—
平準化EPS(円)	117	125	6.8%
平準化当期純利益 (億円)	1,070	1,138	6.4%
のれん等償却前ROE(%)	△ 0.3	21.9	—

## 連結売上高の変動要因分析

(単位：億円)

	2016年度の 対2015年度増減
日本総合飲料	△ 383
キリンビールの減収	△ 226
キリンビバレッジの減収	△ 174
メルシャンの減収	△ 30
海外総合飲料	△ 627
ライオンの減収	△ 660 <sup>※1</sup>
ブラジルキリンの減収	△ 163 <sup>※2</sup>
ミャンマー・ブルワリーの新規連結	224 <sup>※3</sup>
医薬・バイオケミカル	△ 200
協和発酵キリンの減収	△ 212
その他	△ 7
合計	△ 1,218

※1 2016年度為替レート：1豪ドル=82.33円(2015年度：93.16円)

※2 2016年度為替レート：1ブラジルレアル=31.83円(2015年度：36.30円)

※3 2016年度為替レート：1,000ミャンマーチャット=90.62円

## 連結営業利益の変動要因分析

(単位：億円)

	2016年度の 対2015年度増減
日本総合飲料	192
キリンビールの増益	72
キリンビバレッジの増益	116
メルシャンの増益	16
海外総合飲料 <sup>※4</sup>	100
ライオンの減益	△ 72 <sup>※1</sup>
ブラジルキリンの増益	33 <sup>※2</sup>
ミャンマー・ブルワリーの新規連結	88 <sup>※3</sup>
医薬・バイオケミカル	△ 120
協和発酵キリンの減益	△ 120
その他	△ 5
合計	171

※4 のれん等償却前営業利益の増減益額

## 2016年度の経営成績及び財政状態の報告・分析

## 貸借対照表

## ● 資産

2016年12月31日現在の総資産は、前期末に比べ956億円(3.9%)減少して2兆3,481億円となりました。流動資産は337億円減少して7,481億円となり、固定資産は無形固定資産の償却および在外子会社の為替影響による減少等により618億円減少して1兆6,000億円となりました。

## ● 負債

2016年12月31日現在の負債は、前期末に比べ1,036億円(6.9%)減少して1兆4,020億円となりました。流動負債は155億円減少して6,503億円となり、固定負債は有利子負債の減少等により880億円減少して7,517億円となりました。

## ● 純資産

2016年12月31日現在の純資産は、前期末に比べ80億円(0.9%)増加して9,460億円となりました。

この結果、自己資本比率は、前期末の27.2%から29.0%となり、1株当たり純資産は、前期末から18.44円増加して745.92円となりました。

## 連結貸借対照表サマリー

(単位：億円)

	2015年度末	2016年度末	対前年度増減
流動資産	7,819	7,481	△ 337
現金及び預金	664	589	△ 74
受取手形及び売掛金	3,976	3,935	△ 41
棚卸資産	2,277	2,076	△ 201
その他	900	880	△ 20
固定資産	16,618	16,000	△ 618
有形固定資産	7,117	7,052	△ 65
無形固定資産	4,585	4,019	△ 566
のれん	2,692	2,289	△ 402
その他	1,893	1,729	△ 164
投資その他の資産	4,915	4,929	13
資産合計	24,437	23,481	△ 956
流動負債	6,659	6,503	△ 155
支払手形及び買掛金	1,420	1,358	△ 62
有利子負債	1,581	1,349	△ 232
その他	3,657	3,796	139
固定負債	8,397	7,517	△ 880
有利子負債	5,989	5,137	△ 852
その他	2,408	2,379	△ 28
負債合計	15,056	14,020	△ 1,036
株主資本	6,456	7,289	832
その他の包括利益累計額	181	△ 482	△ 664
新株予約権	4	5	1
非支配株主持分	2,738	2,648	△ 89
純資産合計	9,380	9,460	80
負債純資産合計	24,437	23,481	△ 956

## キャッシュ・フロー計算書

2016年12月31日現在の現金及び現金同等物の残高は、前期末より26億円減少し、577億円となりました。

### ◆ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金は、関係会社株式売却益が154億円増加、減損損失が1,229億円減少などの減少要因がありましたが、税金等調整前当期純利益が1,633億円増加、売上債権・たな卸資産・仕入債務・未払酒税・未払消費税等の増減による運転資金の流出が296億円減少したことなどにより、前期比554億円増加の2,264億円となりました。

### ◆ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金は、有形及び無形固定資産の取得について、前期より179億円多い950億円の支出、有価証券及び投資有価証券の取得により207億円の支出がありましたが、一方、有形及び無形固定資産の売却により201億円、有価証券及び投資有価証券の売却により161億円の収入がありました。これらの結果、前期比68億円増加の775億円となりました。

### ◆ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金は、長期借入れによる収入が383億円、コマーシャル・ペーパーの増加が450億円あった一方、長期借入金の返済が1,292億円、社債の償還が300億円、配当金の支払が431億円ありました。これらの結果、前期比669億円増加の1,451億円となりました。

これらの結果、キャッシュ・フロー関連指標は、次の通りとなりました。

	2015年度	2016年度
自己資本比率 (%)	27.2	29.0
時価ベースの自己資本比率 (%)	61.5	73.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	480.4	314.3
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	13.0	22.9

- (注) 1. 自己資本比率：自己資本／総資産  
 2. 時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産  
 ※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しています。  
 3. キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー  
 ※ 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。  
 4. インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い  
 ※ 利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書サマリー

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	対前年度増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,710	2,264	554
税金等調整前当期純利益	174	1,807	1,633
減価償却費	946	774	△ 171
のれん償却額	273	223	△ 50
その他	316	△ 540	△ 856
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 706	△ 775	△ 68
固定資産の取得	△ 771	△ 950	△ 179
その他	64	175	110
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 782	△ 1,451	△ 669
有利子負債の増減額	△ 339	△ 996	△ 656
配当金の支払額	△ 411	△ 431	△ 20
その他	△ 31	△ 24	7
換算差額等	△ 23	△ 63	△ 40
現金及び現金同等物の増減額	198	△ 26	△ 224